

## 桜塚高等学校 定時制の課程 職員研修

日時 平成 26 年 2 月 3 日 (月) 15 時 15 分から 17 時  
場所 本校会議室  
講師 本校卒業生 看護師 中岸 澄江 氏  
徳島県鳴門市出身  
大阪中央病院附属看護学校卒業  
昭和 34 年 市立豊中病院勤務  
桜塚高校定時制の課程入学  
昭和 38 年 桜塚高校 定時制の課程 卒業 13 期生

大阪府立千里青雲高校 6 年間で 市立豊中病院 5 人決定  
卒業生多数が看護師で務めている

テーマ 「命見つめて」

### <<講演概要>>

私の父親は、戦争に行きシベリアで抑留され強制労働につかされた。自分が命の大切さを実感したのは、僅か4歳の防空壕での中での恐怖体験からである。父は帰国したが、37歳の若さで死亡。その時、人間はいつ死ぬかわからないと痛感し、人のために役立つ仕事に就きたいと思った。母親は、花嫁道具の着物を農家で食べ物に変え、私と7つ違いの妹を育てながら命より大切なものはないと教えてくれた。

大阪中央病院附属看護学校を卒業後、市立豊中病院に勤める傍ら、桜塚高校定時制の課程に入学した。土曜と日曜に病院の当直を務め、病院と桜塚高校で一生懸命勉学に励んだ。遠足も休まず、4年間で欠席は3日のみであり精勤賞をもらった。

卒業後は、看護婦としての経験や豊中市役所の福祉保健部の草分けとしての活動から命の尊さについての認識を深めた。手術に向かう患者の心の不安を和らげたり、手術室での看護師としての長きにわたる経験は無駄なことは何もなかった。新生児との出会いは6000件を超えている。看護の「看」の字は手と目から成り立っており、「心身不二」即ち心と身体は一体である。生命の誕生は背骨からであり、目は最後に完成するのである。

その中で「病は気から」→「健康は気から」気の持ち方が大切である。母親が65歳の時に子宮癌にかかるも、あきらめずに治療に専念し86歳まで生きた時、「命はあきらめてはいけない」「あきらめ」は死に繋がると実感した。

同時に、命と勉強は同じで、真正面から取り組めば展望は開ける。また、採点に○は付けるが×は付けなくて、何が間違っているかを記述するようにしている。

なお中岸さんは現在、千里星雲高校で授業を持っておられ、生徒一人ひとりを大切に指導しておられる。卒業生が精神的に参った際には、仙台にまで身軽に足を運ばれ励まされている。そのようにして、命を預かる看護師を多く育ててこられたのである。